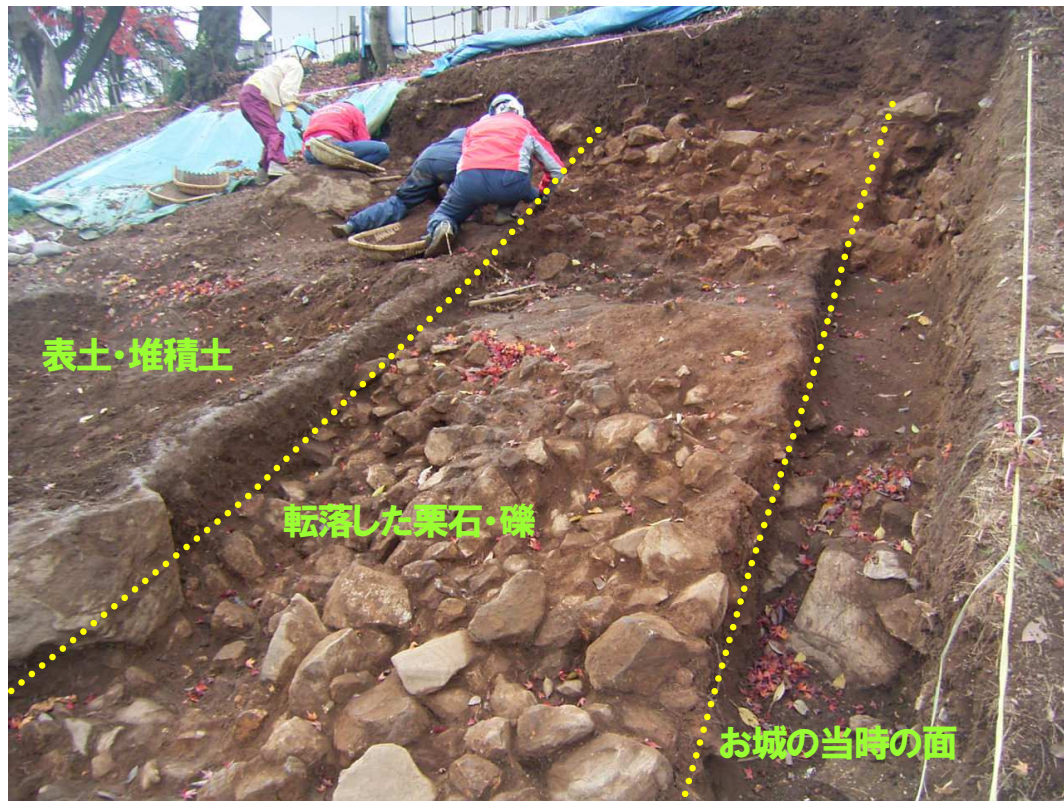


# 表土掘削 の下には 何？



(左から順に) 表土掘削中→栗石・礫の検出段階→城の遺構  
石材が転落した状況も確認・記録しながら調査しています

一雨ごとに寒さが増し、小牧山にも本格的な冬が訪れています。主郭北～北東斜面で行われている史跡小牧山（小牧山城）の発掘調査は現在、遺構（お城の痕跡）の上を覆う土を取り除く作業を進めています。

450年という時間の厚みそのものともい

える大量の土砂をスコップなどを用いて掘り出しています。一部では、お城の石垣に使われていたと考えられる栗石（ぐりいし）や礫（れき）などが見つかりはじめています。

山頂斜面であることや、石垣など貴重な遺構を壊さないため、作業は重機を使わず、全て人力、手作業で行っています。斜面に足を踏ん張り、土を運ぶ作業員の吐く白い息が山の冴えた冷気に消えていきます。

## 小牧山城

# はっぴーがわら版

第2号

20141208

北東斜面での作業の様子



### 発掘ひとくちメモ

### ～「小牧山の生物多様性」～

小牧山の地表の土は葉や草などの植物に由来する腐葉土が堆積したものです。土中の環境が良好なせいか、土の中からはトカゲ、セミの幼虫、ムカデなど様々な生物が見つかります。見つかった生き物たちは、近くの同じような環境の土の中に戻してやっています。歴史的な場所として見られがちな小牧山ですが、その豊富な自然も大きな魅力です。調査や今後の整備でもこうした多様性を尊重し、活かしていくことも大切な取り組みです。

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会